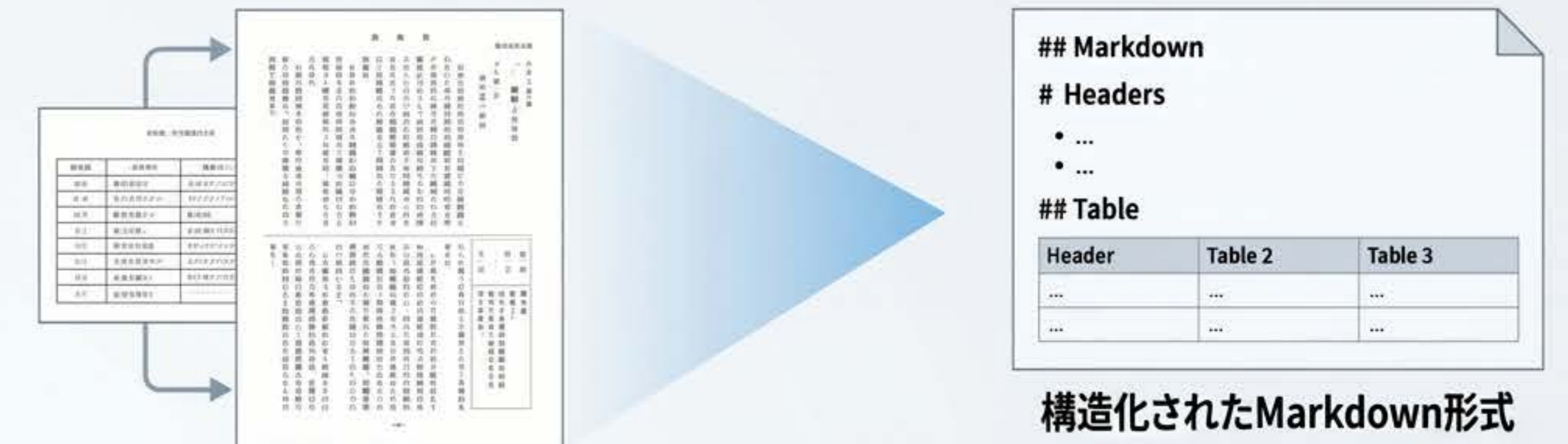


ソフトバンク国産AI「Sarashina」知財業務 活用ガイド：知財コパイロットへの道

モデルの進化と提供形態



知財に強い「Vision/OCR」モデル



日本語特化の計算効率：他モデル (Llama3等) の約1.5~1.7倍効率的に処理

知財実務における「採否」評価

業務シナリオ	推奨構成	判定	主なリスク/留意点
要約・翻訳	Sarashina API / 70B系	強く推奨	権利範囲を変える要約、因有名詞の誤訳
文書構造化(OCR)	2.2-OCR / Vision-3B	強く推奨	罫面番号の取り違え、表崩れ
出願筆案作成	API / 2.2-Instruct	補助用で可	サポート要件違反、モデルの不正確な出力
先行技術調査	API + J-PlatPat RAG	条件付き可	検索漏れの可能性。最終判断は人間が実施
侵害リスク評価	(利用を推奨しない)	単独不可	事実認定や法解釈での誤誘導リスク大

知財コパイロット (推奨)

知財オートパイロット (非推奨)

Sarashina2.2 (Instruct/Vision/OCR) などは MIT ライセンスであり、本書業務への適用が可
本書業務への適用が可能です。

Sarashina2-8x70BやEmbedding (理め込み) モデルの一部には、非商用制限に拘え「Legal work への利用禁止」ポリシーがあり、注意が必要です。

知財部門の第一選択は「Sarashina API」
入出力データを学習に利用しないと明示されている慣用API: または国内データ主権を確保できるCloud PF Type Aの利用が最も安全です。

知財部門が直面する「ライセンスの罫」



商用利用・法務利用が可能な群 (MIT)
MITライセンスで商用利用・法務利用が可能。



法務・知財業務が「禁止」される群 (NonCommercial)
「Legal workへの利用禁止」ポリシーがあり、注意が必要。

導入に向けたPoC(概念実証)の設計案



STEP 1: 公開情報による精度検証
最初の2~4週間は、公開公報や匿名化した過去案件を用い、要約の定規性やOCRの両項率を詳細接種 (Recall/F1/人手接点) で認定します。

STEP 2: 機密情報への拡張と契約確認
データ保持期間、割線証明、SLA、モデル更新通知など。公開資料で未確認の項目を契約条件として認め、セキュアな環境で構検索案件に適用します。

人間中心のワークフロー構築
AIによる構造化・検索・尾棄生得の後には、必ず「弁護士・共済士・知財責任者によるレビュー」を組み込む設計が必須です。